

令和8年度 学校自己評価システムシート（中間評価）

本庄東高等学校附属中学校

目指す学校像	建学の精神 本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地をつくり、人生に望みと喜びを与えるところである 教育方針 一貫校である本校の特色を生かした「自らが考え、判断できる、知と心を備えた聡明な人材」の育成
重点目標	1．知的好奇心を育て、学習習慣を確立し、確かな学力を身につけさせる。 2．幅広い視野を持ち、生徒一人一人が、自ら職業観を育てる。 3．礼儀やマナーを大切にし、自他を尊重できる人間関係を促進する。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

	年 度 目 標				中 間 評 価（10月31日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	今後への課題と改善策
1	・知的好奇心を高めて、社会の中で有益な思考力・表現力を育む教育を継続し、主体的・対話的で深い学びを更に充実させていく。そして、入試にも対応できるよう授業実践を行う。 ・確かな学力を身につけさせるため、授業での学習理解度を自らで確認できるようにさせ、授業・家庭学習での目標を明確にし、目的意識を高めさせる必要がある。	・主体的に学習に取り組めたか。 ・多角的視点・教科横断的理解ができたか。 ・自分で学習管理ができたか。	・3学年が連動して学ぶ活動的多元的学習（A I L）を発展させる。 ・各教科における授業での教科横断的な内容を用いる授業の工夫を更に実践する。 ・学習状況チェックノートの活用を徹底し、生徒の学習活動に対する理解を更に深め、主体的に時間管理ができるようにする。	・学習に対する積極的な姿勢と目的意識を持って取り組むことができたか。 ・複数の視点から学習内容を捉え、教科横断的な理解を深めることができたか。 ・学習状況チェックノートや学習手帳を活用し、理解不足を把握して改善に取り組むことができたか。また、家庭学習の時間管理や授業準備が適切に行われていたか。	・授業で思考と対話を重視した活動も進めており、主体的な参加が見られる。A I Lに関しては本格的な取り組みは今後進んでいく見込みである。 ・A I Lや教科横断的授業、総合学習などにより、物事を複数の教科からの視点で触れる機会があり、理解の広がりや年度後半の活動を経て充実していく段階にある。 ・チェックノートや学習手帳の活用は例年通り継続している。学習管理の定着には個々で差がある。	B	・主体的な学習行動をさらに広げるため、授業のねらい提示や振り返りの質を高める指導を強化していく。 ・教科横断的な理解を深めるため、各教科で扱う関連内容を整理し、A I Lで得た視点を通常授業へ接続する振り返りを設けて学びの一体感を高める。 ・チェックノートや学習手帳の活用を個々の行動改善につなげられるよう指導し、今年度後半に向けて計画・実行・振り返りの流れを安定して身につけられるよう支援する。
2	・キャリア教育の目的・目標を踏まえ、中学3年間の系統性を意識して、各学年ごとの目標設定をより明確にしていく必要がある。 ・民間企業による特別授業を一層有効に活用し、生徒がより多くの業種に触れ、体験できる機会を充実させていく。 ・A I Lの活動を通して、入試に対応する力だけでなく、社会で必要とされる力も計画的に育成していく。	・業種や学問への理解を深めることができたか。 ・自身の進路目標を明確にし、主体的・計画的に取り組むことができたか。	・企業による特別授業を活用し、社会にどのような仕事・業種があるのかを知るとともに、自身の進路目標を明確にしていく。また、学問研究を通して、各自の目標達成に向けた具体的な進路プランを考えさせる。 ・全学年を通して、授業の中で職業調査や大学等の学問研究を行い、キャリア教育への理解を一層深めていく。 ・A I Lを通して、全教科融合的な学習を実施し、思考力や表現力を育成していく。	・より多くの成果を生み出すための事前指導・事後指導が、適切に行われていたか。 ・生徒が活動の目的を十分に理解したうえで取り組むことができたか。 ・積極的かつ主体的に活動に参加することができたか。 ・対話的で深い学びにつながる振り返りや共有が行われていたか。	・各学年で職業調査や学問研究を継続して実施し、3年間のキャリア教育の流れを意識した取り組みが進んでいる。 ・企業特別授業や大学等の学問研究を通して、多様な業種・学問に触れる機会を確保し、理解が年度前半として適切に深まっている。 ・学園祭の発表を中心に、自身の興味・関心を整理し、進路目標を考える姿勢が育ちつつある。 ・A I Lの活動が本格的に始まり、課題設定や情報収集など序盤の学習が進み、キャリア教育に必要な思考力・表現力の育成が動き始めている。	B	・各学年の目標を明確化し、年度後半に向けて3年間の学びが段階的につながるよう指導の系統性を強化する。 ・事前・事後指導を充実させ、得た知識を進路選択に結びつけられるよう学びの整理を促す。 ・学園祭後の振り返りを活用し、興味・関心と学んだ内容を関連付けて整理する活動を強化し、年度後半に向けて進路プランを具体化できるよう支援する。 ・年度後半に向けて対話的な学びや表現の場を充実させる。
3	・校内外を問わず、モラルやマナーの更なる向上を図り、周囲から信頼される生徒を育てる。 ・学校生活や行事を通して協力や団結を大切にし、人間性を育てる。 ・危険を回避する判断力を身につけさせ、社会性のある生徒を育てる。	・モラル、マナーを守れたか。 ・協力、団結を意識できたか。 ・危険回避など社会的判断ができたか。	・年間を通して定期的に、スクールバスや駅での巡視を行い、生徒の現状を把握する。 ・必要に応じて、学年集会や全校集会を実施し、生活面の課題に対応する。 ・外部講師による注意喚起・啓発を行い、危険回避に関する意識を高める。	・定期的な巡視により、生徒の様子を把握し、適切な行動ができていたか。 ・学校生活のルールや挨拶が守られていたか。 ・交通ルールなどの社会的なルールを適切に守ることができていたか。	・定期的な巡視や学年集会を通して、挨拶や基本的な生活マナーの定着が進み、校内外での行動に落ち着きが見られている。 ・学校生活や行事を通して、協力して取り組む姿勢が見られ、学年・学級での団結が年度前半として適切に育っている。 ・外部講師による啓発や交通ルール指導を行い、危険回避や社会的判断に関する意識が高まりつつある。	B	・巡視結果を学年で共有し、生活面の課題に応じた指導を継続して、校内外でのマナー向上をさらに図る。 ・行事後の振り返りを活用し、協力の意義を再確認する機会を設け、学年全体での一体感をさらに高める。 ・日常の場面での指導を継続し、危険を予測して行動できるよう、具体的な事例を用いた啓発を強化する。